

New Sophia Hospital

ニューソフィアホスピタル

福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号 TEL092(801)0411

No.19
2017.5



病院の理念

私たちは、安全で質の高い、思いやりのある医療を提供するとともに、豊かな人間性を備えた有能な医療人の育成に努めます

病院の基本方針

- 1.患者の皆様を尊重した医療
 - ・温かく思いやりのある医療を提供し、医療倫理の向上をめざします。
- 2.高度医療の提供
 - ・医学、歯学の専門診療科が協力し、総合的で高度な医療を提供します。
- 3.地域医療への貢献
 - ・地域の基幹医療施設として、病診連携の充実を図ります。
- 4.痛みのわかる医療人の育成
 - ・人間性豊かで有能な医療人の育成に努めます。

お薬の受け取り方法が変わります

平成29年6月1日より

患者の皆様のお薬は院外の保険調剤薬局でお受け取りいただくこととなります。

厚生労働省では病院やクリニックで処方箋を出す医師と、お薬を調剤する薬剤師との役割分担を明確化する“医薬分業”の推進に力を注いでいます。当病院におきましても、平成29年6月1日より医薬分業を実施することになりました。

お薬を受け取る薬局については、患者の皆様が自由に選べます。患者の皆様が便利な薬局をどこか一ヶ所に決めて「かかりつけ薬局」としてご利用されますと、「かかりつけ薬局」では薬歴管理をしていますので、複数の医療機関から処方されたお薬の重複投与の防止や飲み合わせのチェック等が可能となります。

福岡市薬局検索 <http://www.fpa.gr.jp/search/>

なお、ご不明な点がございましたら、当院スタッフまでお尋ねください。

お薬を受け取るまでの流れ

病院

1 診察 ▶ 2 処方せんを受け取る ▶ 3 会計 ▶

院外の保険調剤薬局

1 処方せんを提出する ▶ 2 会計 ▶ 3 お薬を受け取る

※処方せんは交付の日を含めて4日以内に保険調剤薬局に提出してください。

(4日を過ぎると、その処方せんは無効となってしまいます。)

本院の特色 ～全身を診ることのできる歯科医師の育成～

安心安全な医療をお届けするためには、歯科と医科との連携が大切です。その点、本院は歯科医師と医師との連携が密で、お互いに協力しやすい環境にあります。患者の皆様におかれましてはどうぞお気軽にご相談いただきますようお願い致します。

また、医師と歯科医師の連携のためには、歯科医師にも医学の専門的知識が必要です。そこで本院では全国に先駆けて「口腔医学」を提唱し、歯科学生の医学教育にも力を注いでいます。

安心安全の方程式は **歯科＋医科＝口腔医学**

オーラルくん



歯科医師と 医師との協力の 例として

ストマックくん



- 骨粗鬆症患者の抜歯における整形外科と口腔外科の協力
- 歯周病治療による糖尿病の改善
- 小児のアレルギーにおける小児科と小児歯科の協力
- 蓄膿症における耳鼻咽喉科と口腔外科の協力
- 高齢者の口腔ケアによる肺炎予防
- 舌痛に対する口腔外科、麻酔科、心療内科の協力
- 口臭についての口臭外来と消化器外科の協力
- ドライマウスとドライアイ＝口腔外科と眼科

パート8

今回は、歯科・医科連携の一例として、
嚥下障害における協力をご紹介します。

誤嚥性肺炎とお口の汚れ

高齢者歯科 教授 内藤 徹

肺炎というと、抗生剤などの薬で治すことができ、最近ではあまりみられなくなった病気のようなイメージがあるかもしれませんが、油断は禁物です。近年では、肺炎で亡くなる人が急激に増えているのです。ここ数年の日本人の死亡の原因をみると、がん、心臓病に続き、肺炎が第3位となっています。とりわけ、高齢者の肺炎が増加していることに注意が必要です。

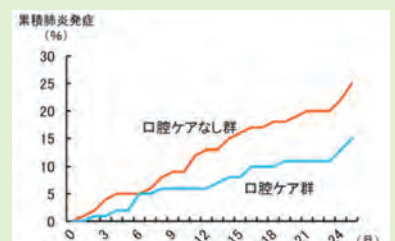
なぜ高齢者に肺炎が起きやすく、また治りにくくなるのでしょうか？それは、高齢者のお口の汚れと、ご高齢の方に多いムセが関係していると考えられています。高齢者の肺炎のほとんどは、誤嚥性肺炎（嚥下性肺炎）と呼ばれる、口の中の汚れが肺に落ち込んで発症する肺炎です。脳卒中などのために手の動きに不自由がおきて歯磨きが十分にできなくなったり、あるいは認知症が進んでご自分で歯磨きをすることが困難になったりすると、口の汚れがひどくなり、細菌が増えてきます。これが肺炎が増加する一つめの理由です。

また、加齢に伴う筋肉の衰えは、食べる力、飲み込む力にも影響します。飲み込む力が衰えたり、飲み込む反射が弱くなったりすることでムセが起きやすくなります。ムセは、口の中のものが食道に進まず、気管に誤って入った誤嚥が生じたときに起きる反射です。誤嚥して気管の中に入った食物や唾液を、セキなどによって外に出すことができないときに、肺で細菌感染がおこり肺炎を発症するのです。

ご自分で十分に歯磨きができなくなった高齢者に定期的に口腔ケアを行うと、口の中がきれいになり、また気管に入った異物を出すためのセキが出やすくなり、肺炎の発症が半分程度になるとされています。これからの超高齢社会では、元気に暮らすためにはお口の健康を守ることも重要なのです。



脳卒中のため自分で汚れを取ることができなかった入れ歯



要介護高齢者に定期的な口腔ケアをしたところ、肺炎の発症は約半分に

嚥下障害の原因と検査方法

耳鼻咽喉科 教授 山野 貴史

ものの飲みこみが悪くなった状態のことを嚥下障害といいます。嚥下障害の原因となる病気は、脳出血・梗塞等の脳血管障害、パーキンソン病などの変性疾患といわれるもの、頭部の外傷、舌癌や咽頭癌などさまざまなものがあります。また、ヒト（特に男性）は年齢を重ねると皆さん飲み込みが悪くなります。この原因としては頸部の筋肉の機能が衰えて、喉頭が下垂してしまったり、感覚や反射が落ちてくることなどが挙げられます。嚥下障害が進行すると、口から食べた食事は本来ならば食道を通過して胃に入りますが、誤って気管に入ってしまう状態を繰り返すようになります。この状態を誤嚥といい、高齢者の肺炎のほとんどはこれによるものといわれています。

病院で行う嚥下障害の検査は主に2つあります。1つは、実際に色のついた水分や普段食べているものを、飲んだり食べてもらいながら、鼻から細い内視鏡を入れて観察する嚥下内視鏡検査です。もう1つは、バリウム等の造影剤や造影剤を入れたゼリーやおかゆなどを食べてもらっている状態を、X線を当ててビデオ撮影して観察する嚥下造影検査です。これらの検査によって嚥下のどこが悪いのかを確認して、おかゆがいいのか水分にとろみを付けた方がいいのかなどの食事の形態について指導をしたり、リハビリテーションのメニューや手術治療の選択など治療方針を決定します。2つの検査ともに外来でできる検査です。



嚥下内視鏡検査を外来で施行している様子

入院患者さんの口腔ケアも私たちの仕事です

歯科衛生士部 縄田 和歌子

口腔ケアや口腔機能の向上、さらには栄養状態の改善を目指して、歯科衛生士が入院患者さんの療養生活を支えているのをご存じでしょうか。

高齢者は誤嚥によって肺炎を起こし、重篤な状態に陥ることがありますが、医科歯科総合病院である当院では歯科と医科が連携してその治療や予防にあたっています。誤嚥性肺炎を予防するために大切なのは、「お口の中をきれいにすること」と「飲み込む機能を向上させること」です。とくに、嚥下障害で飲み込む機能が低下し、お口から食事をしていない方は、口や舌を動かさなくなるので唾液が減少し、お口の中が乾燥して汚れます。そこで、歯科衛生士がお口の中に潤いを与えるために保湿剤を塗布したり、唾液腺のマッサージを行っています。

舌の動きが悪い方には、パタカラ体操といって「パパパパ、パンダ」、「タタタタ、タヌキ」、「カカカカ、カラス」、「ララララ、ラッパ」のようにリズムに合わせて繰り返し発音する練習をしてもらいます。これは、食べ物の取り込み、咀嚼、飲み込みなどお口の機能の維持・向上に効果的といわれています。お口の周りの筋力が低下している方には、前歯と唇の間に糸を通したボタンをはさみ、ボタンを引っ張っても抜けないように唇に力を入れる口唇閉鎖訓練をしてもらいます。

このほか、歯周病に罹患するリスクが高いといわれている糖尿病の患者さんや自分自身で歯磨きができない入院患者さんの口腔ケアを歯科衛生士が行っています。手術を受ける患者さんに対しては、手術後に誤嚥性肺炎等の合併症が起きないように手術前に歯のクリーニングや歯磨き指導を行い、手術後はご自身で歯磨きができるようになるまで歯科衛生士が病室を訪れてお口のケアを行っています。



編集
後記

本院のすぐ近くに建てられた福岡看護大学が4月から開学となりました。第一期生の入学式では、来賓から全身と口腔の関係にも目を向けた看護人材の育成に期待が寄せられていました。医科-歯科連携といえば本院の得意分野ですが、全身の健康を守るために口腔ケアが重要であるとの認識が高まってきた今、その先頭を走っていくために私たちはいろいろな取り組みを続けています。今回の紙面で紹介したのはその代表例のひとつである誤嚥性肺炎ですが、これを予防することでトラブルを未然に防ぐ役割を担っているのが口腔ケアの専門職である歯科衛生士です。このシリーズ企画を通じて、これからも多職種連携にかかわる人たちを紹介していきたいと思ひます。（サービスマナー向上委員会 小島 寛）

